

綾瀬市立綾北小学校

研究テーマ：生き生きと学び合う子～思考力を育てる「考えるための技法」の活用～

1 実践の目的

グローバル化と技術進歩が進み、生活様式や仕事の仕方の変化も激しい。そのような時代の中で様々な問題解決をするためには、『生きて働く「知識、技能」の習得』『未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成』『学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養』の3つの柱が大切になる。そこで、6年間で身に付けさせたい資質・能力を全体で共有し、生活科と総合的な学習の時間を軸として研究を進めてきた。また、国際色豊かな本校では、書くこと・読むこと・様々な生活体験などに大きな差がある。全国学力・学習状況調査からも、自分の考えを持ち、表現することや自ら課題に取り組むことに苦手意識を持っている児童が多い状況にある。そこで、身の回りの人・もの・ことに主体的に関わり、友だち・教師と探求する楽しさを味わうことを通して、学習意欲の向上と学ぶことの意義や楽しさを感じ取らせたい。

2 実践の内容

昨年度までの取り組みとして、綾北小学校の「目指す6年生像 ①一人ひとりが学ぶ楽しさを感じ、進んで学ぼうとする姿 ②自分の考えをもって自分らしく表現したり、物事に取り組んだりする姿 ③友だちと関わり合うことで学びを深めながら、困難に立ち向かう姿」を設定し、各学年の生活

科・総合的な学習の時間における単元の指導内容を精査し、探求課題の設定を行った。また、生活科の2学年を通した指導計画と総合的な学習の時間の各学年の年間指導計画、それらの実践記録の作成も行ってきた。今年度は、年間指導計画の見直しと実践記録の作成を継続し、生活・総合的な学習の時間における整理・分析の活動の充実を軸に授業研究を行った。

研究授業では、学年ごとに全学級が公開授業を行った。授業では、各学年が整理・分析の場面を公開し、それぞれの学年の発達段階に合わせた活動のさせ方について考えた。その際、考えるための技法をいかに活用するか、年間を通した単元の目標を達成するためにどのように活動を展開していったらよいかなど協議の視点を明らかにしながら話し合いを行った。1、4、6学年の授業では、講師の吉田豊香先生に指導と講評もいただき、思考ツールの活用の仕方や学習指導要領に沿った評価の視点についてなど多くのことを学んだ。



「あやせ授業モデル」「あやせノートモデル」を今年度も活用し、特に「振り返り」の時間を設定することを全教員が意識し、日々の授業・研究授業を行った。校内で行った教員向けのアンケートでは、多くの教員が授業ごとに「振り返り」の時間を設けていたり、取り組ませ方を工夫していたりすることが分かった。その一方で、毎時「振り返り」の時間を捻出することの難しさや、学んだことを整理して考えることが難しい児童や書くことに抵抗がある児童がいるなどの課題も見えた。



ミニ研修や授業公開ウィークなど教員間で学び合う機会を設定した。ミニ研修では、学級経営や授業の工夫、児童指導の実践などを共有した。授業公開ウィークでは、昨年度までは生活科・総合的な学習の時間のみの公開としていたが、今年度は教科を限定せず、公開の期間はどの授業も自由に参観できるようにした。ミニ研修、授業公開ウィークどちらも、経験の浅い教員の学び場、それぞれの教員の強みを共有する場、緊張感をもって授業に取り組む機会になるなど、様々な面で機能した。

3 実践の成果

年間指導計画をもとに生活科・総合的な学習の時間の活動を進めたことで、1年間の見通しをもちながら授業を進めることができた。また、児童の関心や授業の展開によって内容を変更しても、目指す児童像や単元のめあてをもとにして各学年テーマを設定した目的から逸れないように意識することもできた。考えるための技法の活用を意識的に行ったことで、体験的な活動で感じたことや調べ学習をして分かったことをもとにさらに考えを深めたり次の課題へと広げたりするなど、生活・総合的な学習の時間をより探究的な活動に近づけることができたと感じる。生活・総合的な学習の時間だけでなく、他教科でも思考ツールを用いて学習内容を整理する機会を作るなどの形でも研究の成果が見られた。

4 今後の展開

綾北小学校の「目指す6年生像」に迫っていくために、来年度からは他教科でもそれらの姿に近づけるためのアプローチに力を入れていきたいと考えている。校内研究では、生活科・総合的な学習の時間のこれまでの取り組みである年間指導計画の作成・実践記録の積み上げを継続しながら、教科を国語科に絞って研究を展開していくことを予定している。また、「あやせ授業モデル」と「あやせノートモデル」の活用を図ってみたが、めあてと振り返りの整合性、評価への繋がり、振り返りの時間の捻出、家庭学習の在り方など、課題も多い。児童一人ひとりの基礎学力の向上かつ質の高い学びの実現を目指し、校内研究と関連付けながら今後も継続して取り組んでいきたい。